

# グリーントピックス

北海道立林業試験場

No.17

## 長期化が予測されるヒラタハバチ類の被害



写真-1 ニホンアカシラタハバチの幼虫

写真-2 カラマツのヒラタハバチNO.1の幼虫  
(巢に糞がほとんど付かない)

カラマツの葉を食害するヒラタハバチ類が4～5年前から、石狩・胆振の東部や弟子屈町で大発生を続けています。終息の気配はなく被害の長期化が予測されています。

カラマツは食葉性害虫の被害に強い樹種で、食害により葉を失っても再び葉を開き生き延びます。しかし、何年も被害を受けると徐々に衰弱し枯死の危険がでてきます。

発生しているヒラタハバチ類はニホンアカシラタハバチ(写真-1)、カラマツのヒラタハバチNO.1(写真-2)とNO.2(写真-3)の3種類です。いずれも北海道ではこれまでの分布記録がなく最近、本州から侵入したものと考えられます。

大発生の長期化は北海道に有効な天敵がないために起きています。このため本州から有効な天敵を導入してヒラタハバチ類を防除する研究を進めています。

(昆虫科)

写真-3 カラマツのヒラタハバチNO.2の幼虫の巣  
(巢に糞が付く：幼虫はNO.1によく似る)